

秦野市青少年指導員だより

発行 秦野市青少年指導員連絡協議会

編集 秦野市青少年指導員連絡協議会広報委員会

第46号



気持ちが伝わった！

たばこ祭で賑わう九月二十六日～二十八日にかけて、秦野・パジュ市友好都市提携十周年を記念した両市青少年交流事業が行われました。私たち青少年指導員は、その前半の二日間、表丹沢野外活動センターで展開された両市中高生の交流をサポートしました。

この夏、中高生国際交流のお手伝いをしました。

新しい取り組み

秦野市がソウルのベッドタウンでもある韓国坡州（パジュ）市と友好提携を結んだのは平成十七年。その後、数回の交互の来訪を経て、平成二十三年からパジュ市中学生に來秦いただくようになり、今年で五年目を迎えます。

この事業における昨年までの本協議会の役割は、初日夜に行われるキャンプファイアを取りしきる、単なる実務担当でした。ところが今年度いただいたのは、パジュ市中学生と彼らを出迎えてそのまま野外活動センターに同宿する本市中高生との、一日目午後から二日目午前にかけての野外活動体験プログラムを、企画・運営してほしいという依頼だったのです。主管する市民自治振興課と事前の打ち合わせを持ち、当日直接の指導に当たる指導員八名の間で何度も検討を重ねて、子ども達

のせつかくの交流の機会を、ぜひとも実りあるものにしたという思いを胸に、その日を迎えました。

開会式 野外炊事

たばこ祭で賑わう九月二十六日（土）、金浦空港をその日の昼過ぎに発ったパジュ市二十名の中学生を、市内の中生十七名で迎えました。

到着が三十分ほど遅れたために薄暗くなりかけたなか始まった歓迎のセレモニー。堅苦しいものになるのではというこちらの心配は、全くの杞憂でした。実は、今回の交流体験に参加したメンバーの半数近くが、昨年七月末に実施された七日間の「京畿英語村パジュキャンプ英語学習プログラム」にも参加しており、一年越しの再会を心待ちにしていたのです。



歓迎のことば



記念品の交換



答礼のことば

キャンプファイアを控えて時間的な制約のある中でしたが、夕食は昨年の仕出し弁当ではなく、竈(かまど)を使ったカレー作り。五つの班それぞれに指導員が付き、火起こしから調理までを指導しましたが、感心するほど子ども達は段取りがよく、こちらが口をはさむ必要などないほどでした。

それもすべて、率先して子ども達の中に溶け込んでいてくれた、東海大学に在籍する韓国からの留学生三名を含む、五名の通訳ボランティアの方のおかげでした。若い彼らがなければ、今回の交流体験は成り立たなかっただろうと、感謝するばかりです。



ちよつと寄り道

野外活動センターでは施設のスタッフがどのような準備をしてバジュ市の皆さんを迎えたのか、簡単に紹介しておきましょう。

前日は雨風が強かったため落ち葉がひどく、朝一番で八角(やすみ)の館、炊事場、道路等の清掃をしました。お風呂やシャワーのための湯は、バタ材という製材で出たチップを使い、沸かしています。

キャンプファイアは、このバタ材を加工したり、適当な太さの丸太を割ったりして組み立てます。火を移すためのトーチは持ちやすそうな角材を選んで適当な長さに切り、

また持ち手の部分をヤスリがけして滑らかにし、布を巻く針金は巻き終わりの切り口が内側に入るようにして、安全面に留意しています。

キャンプファイア

「家路 (Going Home)」の合唱とハミングが、その場にいる全員を厳肅な気持ちにさせてくれます。もちろん、秦野の子には事前に歌詞カードを渡して打ち合わせ済みです。そして全員が大きな声で火の神を呼んで……、威厳のうちに登場した火の神の手から聖なる火をトーチに受け取り、

営火長である市民自治振興課長の掛け声で点火します。そこからは本協議会研修委員長が務めるエールマスターの絶妙のリードのもと、心を解きほぐす導入に始まり、中盤の「アブラハムの子」や「ロンドン橋落ちた」といったゲームでは身体ごと振り回され、

「ジェンカ」「マイムマイム」のダンスで我を忘れた後は、全員で丹沢の山の静寂に耳を傾け、火照った心が解き放たれていくのに身を任せました。終了後、研修棟に戻り、昨年完成したお風呂棟で入浴。二十二時の就寝でしたが、ずいぶんと遅くまで廊下を移動する声が聞こえていたような……。一年ぶりの再会に加えて、カレー作りの一体感とキャンプファイアの昂揚のせいもあつたのでしょうか。

インシアティブゲーム

翌朝はロールサンドで軽く朝食を済ませて、九時から十時三十分まで、活動センター広場で野外活動です。

ラジオ体操で体をほぐした後、まず「数集まり」で即席の四つの班を作ります。そして一人では解決できない課題を個々の工夫と協力のもとにグループで解決していく「イ

ニシアティブゲーム(人間知恵の輪やキャッチング・ザ・スティック等)で盛り上がり始めていたら、なんと生憎の雨。急ぎよ活動棟に戻り、室内ゲームとバルーンアートに移行しました。意外にもこのバルーンアートが、バジュ市の子たちに大好評でした。私たちが関わったのはここまです。子ども達はすぐに田原ふるさと公園にバス移動してそば打ち体験。さらにはご祭を見学して市役所でお別れという日程であつたため、簡単な別れの会しか持てなかつたことが残念でした。



でも少しだけ、国際交流のお手伝いが出来たのではないかと気がしています。カレー作りの合間に、一人の女子が目を輝かしながら口にした「伝わったって感じたの」という言葉が強く印象に残っています。彼ら彼女らの明日に拍手という思いです。

クリスマス研修

(3) 第46号

私たち青少年指導員は、各地区から寄せられる様々な要望に応えられるよう日々研修を重ねています。以下は、台風による長雨もようやく上がった九月十二日にこども館で行われた、クリスマスに向けた全体研修会のレポートです。子ども達にとってクリスマスは、冬休みとともにやってくるわくわくどきどきの中にもちよっぴり厳肅な気持ちにさせられる、不思議な一日なのではないでしょうか。そんな子ども達にとつての特別な日をより思い出深いものにしてあげたいと、私たちが毎年各地区の公民館や児童館で展開しているキャンドルイベントを、さらにレベルアップしたものにしようというのが今回の研修会の目的でした。

イベントは、何本もの蝋燭を立てることが出来る大きな燭台を中央に設けた会場に、真っ暗な中、入場するところから始まります。女神様を招いての燭台への点火。手許の蝋燭への分火。日々の生活を振り返り、自分を支えてくれる人々への感謝を込めた誓い

の言葉の唱和。クリスマスソングの合唱。そして一年の月々の思い出を振り返りながらの消火まで。工夫を凝らした演出の一つひとつを、指導員全員、演劇の立ち稽古のようにして実践していきましました。いつしか誰もが神妙な面持ちになっていたのかも。



燭台点火の研修

だが何より感心させられたのは、その演出の陰で徹底されている安全面への配慮でした。暗闇の中、大勢の子ども達が移動するには危険が伴います。また蝋燭への火の点け方・移し方は、彼らが日頃体験したことの無いものです。そのすべてに事細かな手順が定められていました。施設によつてはペンライトを代用するなどの配慮もされているということですが。

サマーシアター二回記念 影絵演と模擬店

七月二十日(月)、秦野市文化会館小ホールで「演サ連二〇一五 サマーシアター二〇回記念」が開催されました。青少年指導員が本行事に参加するきっかけは、秦野市演劇サークル連絡協議会黒田隆子会長からのお誘いでした。具体的な内容は、文化会館小ホールの舞台で影絵を演じることと、子ども向け模擬店の運営でした。今回は、影絵上演を文化伝承グループが、模擬店のポップコーン販売は大根・鶴巻地区が担当することになりました。

早速、影絵の文化伝承グループが参加に向けて積極的に動きましました。その際、広い文化会館小ホールに、手持ちのスクリーンでは小さいのではないかと不安以外は、昨

年度末から機材の修理・手直しをしていたので、慌てることはありませんでした。演目は、「血を吹くさんご樹」と「一つ目小僧とせえの神」に決まりましたが、急な依頼にメンバー全員が揃うことが難しく、それぞれがカバーしながら練習を行いました。前日のリハーサルでは、いつもの練習以上に熱が入り、人形の登場する手順や細かい動き、また各メンバーの控え位置から動きまで、互いに指摘し合い、修正しました。



「一つ目小僧とせえの神」

当日、改めて眺める舞台は、スクリーンが鮮やかに浮き上がり、圧倒されるほどでした。音声も、いつものCDプレイヤーとは違い、ホール全体に響きわたっていました。朝一



ポップコーンの販売



舞台挨拶

番の公演でしたが、約百人の観客は静かに見入り、クライマックスでは、幼子が「怖い！」と顔を背ける程の迫力で、上々の出来でした。

東公民館に集合して、その日の活動手順について説明を受けました。その後、調理室を

誰かが子どもの頃、葉を落としたり木々に登ったり、一面の落ち葉の上を滑ったりした思い出があるのではないのでしょうか。そんな経験を子ども達にもさせたいと、自分たちでアスレチックを作った遊ぼうという企画です。

東地区では、地区の育成部会と協力し、年二回の「わんぱくスクール」を開催しています。切り出した竹で器・箸を作った味わう七月のソーマン流し。そして秋も深まって迎える第二回は、丹沢の山が舞台です。

東地区 秋のわんぱくスクール

事前に文化会館側と、テーブルやイス、延長コード、電源等の確認をし、ポップコーン機器は自分たちで二台借用し、さらにテント二張を持参しました。
ポップコーンの味は塩味と海苔味の二種類。過去に何回か経験しているので、出来栄には自信があります。販売も好調でした。



うまく出来たかな

セツトし終えたら、それぞれがお目当ての種目にチャレンジします。人気はターザンロープ。少し高いところから

お借りしてご飯を炊き、思い思いの大きさにおむすびを握ります。高学年の児童が中心になって、引率する大人の分まで作ってくれます。
出来上がったおむすびを持って東京電力の下の山に向かいます。途中の急な坂を滑らないよう注意して登ります。
現地に到着後、まず持参したネットやロープをどう配置するか。距離や高低差を考えたながらトランポリンやターザンロープ、ブランコ等をセツトしていきます。木を傷めないよう巻いた麻の上にロープを掛けます。緩まないようにピンと張るのが一苦労。

澤敏夫(第六期会長)委員長、小野孝充(第八期会長)副委

子ども育成課のお力をいただき、五月二十三日(日)に歴代会長経験者の方々にお集まり願ひ、第一回の推進委員会を開いて具体的な準備をスタートさせました。今後、熊

昭和四十三年に青少年を育成する地域の実践的推進役として発足した当協議会は、平成三十年に設立五十周年を迎えます。つきましては今般、今日に至るまでの先輩諸氏の活動を記録すると同時に、明日の秦野を担う青少年の育成に向けての新しい一歩とすべく、設立五十周年記念事業を企画するに至りました。

秦野市青少年指導員連絡協議会 設立五十周年記念事業

滑車を付けたロープにつかまり、一気に下ります。綱渡りやブランコも、自然の中に自分たちで作ったとなると、格別の楽しさがあるようです。
お腹がすいたところで昼食。握ってきたおむすびをいただきます。おかずは子ども達も普段あまり口にしないだろう漬物だけですが、誰もが満足そうでした。

とうございます。

また当日、六期十二年の長きにわたる指導員としての功績を讃えられ、三浦康洋氏(現事務局長)が、優良指導員として表彰されました。おめでとうございませう。

十一月十五日(日)、相模原市「杜のホールはしもと」で、第四十八回神奈川県青少年指導員大会が「育てよう豊かな心・伸ばそう若い力」をテーマに開催されました。
吉川伸治神奈川県副知事、加山俊夫相模原市長にご出席いただき、相模原市青少年指導員による活動事例発表のほか、落語家桂才賀師匠の講演「子どもを叱れない大人たちへ」を拝聴しました。

神奈川県 青少年指導員大会

員長の下、平成三十年の事業実施に向け、現指導員一同、力を併せて参ります。
具体的には、記念式典・記念誌の発行を計画しています。先輩指導員の皆様、また各自治会の皆様には、今後情報や資料のご提供をお願いすることになるかと存じます。どうか宜しくご配慮ください。



北地区の方々と

編集後記

秦野市青少年指導員だより第四十六号をお届けします。

私たちが青少年指導員はこの紙面で見られるように、様々な活動をしています。どうぞご声援下さい。

《広報委員》

- ◎竹川 伊佐子(南)
- 須藤 輝明(西・上)
- 安藤 英樹(本町)
- 林 良子(本町)
- 佐藤 典子(南)
- 相原 良雄(東)
- 内藤 早美(北)
- 菰原 幸二(大・鶴)
- 佐野 公宣(大・鶴)
- 宮永 敏明(西・上)
- 久保 光弘(本部)
- ◎委員長 ○副委員長